



流体制御技術で世界をリードし、  
新時代の要求にこたえる。

# 日本ピラー工業株式会社

2020年3月期 第2四半期

## 決算説明会資料

2019年11月21日  
証券コード:6490

1. 決算の状況
2. 経営計画と進捗
3. 参考資料

# 決算と取り組みの総括① 決算のポイント

- 売上高・営業利益ともに前年同期比 減収・減益
- 産業機器は、海外補修品受注もあり堅調に推移し前年同期比 増収・増益
- 電子機器は、2Qにおいて回復の兆しは見たものの前年同期比 減収・減益
- 30万株(取得価額337百万円)の自己株式を取得

**売上高** 14,327百万円 (前年同期比 1,715百万円減、△10.7%)

- ・ 産業機器関連事業は、国内外共に石油・石化・エネルギー市場が堅調に推移し、売上高は5,176百万円(前年同期比2.0%増)となりました。
- ・ 電子機器関連事業は、昨年度後半から続く半導体製造装置市場の低迷により受注が減少し、売上高は9,105百万円(前年同期比16.6%減)となりました。

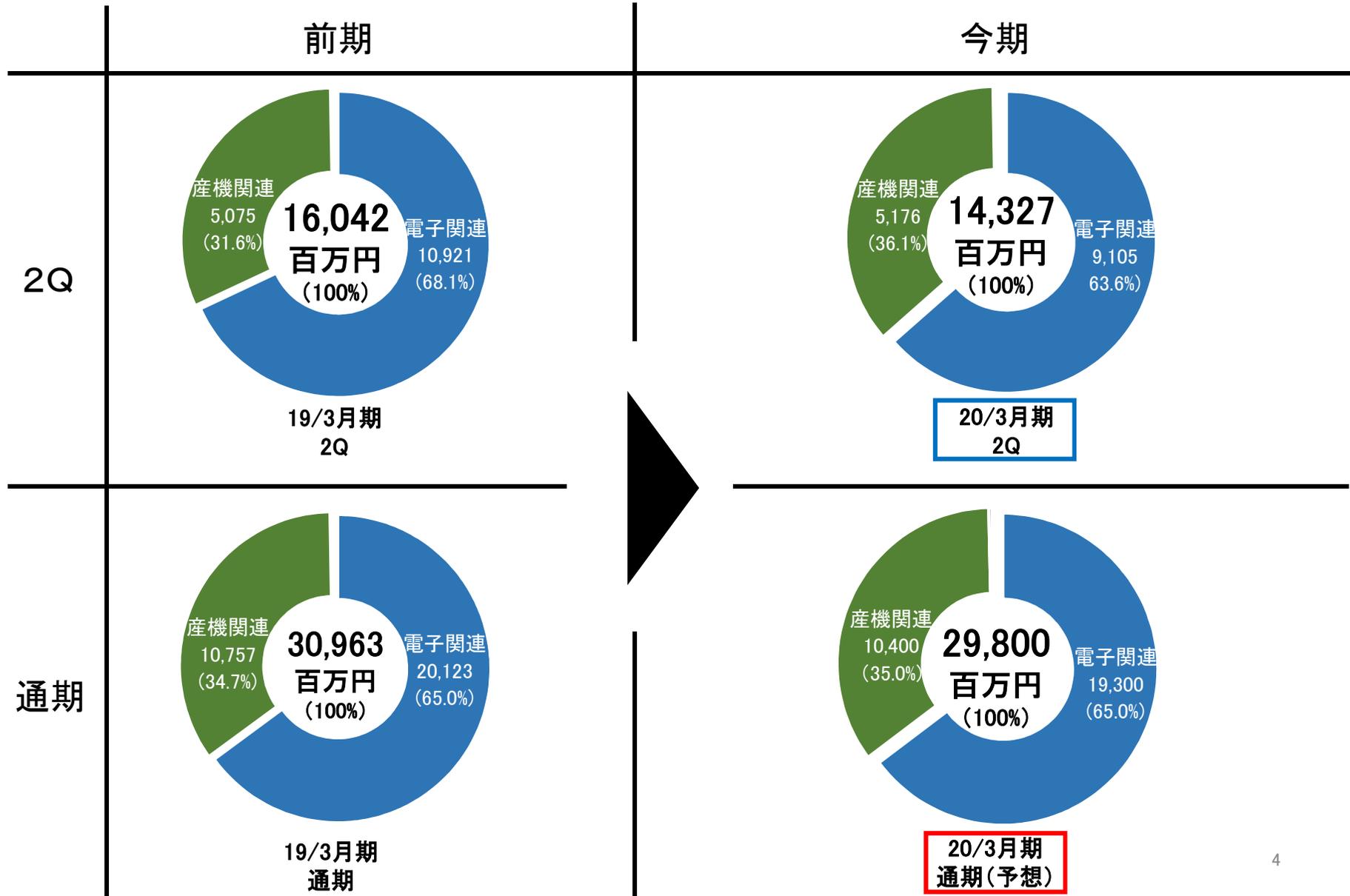
**営業利益** 1,805百万円 (前年同期比 1,219百万円減、△40.3%)

- ・ 売上高の減少や、将来に向けた積極的な投資による減価償却費などの固定費の上昇により前年同期比△40.3%減となりました。

**四半期純利益** 1,318百万円 (前年同期比 996百万円減、△43.0%)

- ・ 営業利益及び特別利益の減少により、親会社株主に帰属する四半期純利益は前期同期比△43.0%減となりました。

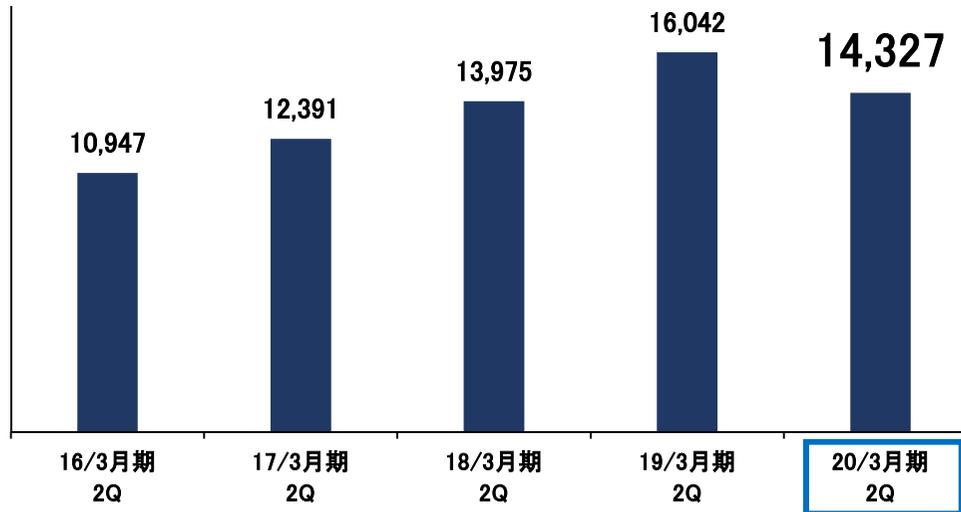
# 決算と取り組みの総括② セグメント別売上高



# 決算と取り組みの総括③ 業績推移

## 売上高

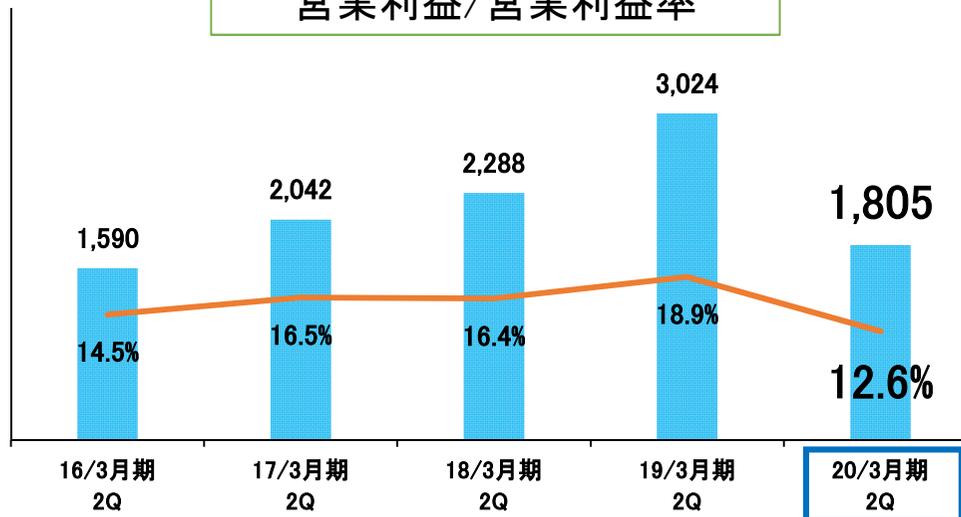
(単位: 百万円)



## ポイント

- ・売上高は前期比で減収となったものの半期における売上高は過去2番目
- ・固定費の高止まりにより減益となった
- ・海外売上高比率は続伸
- ・海外事業拠点の展開

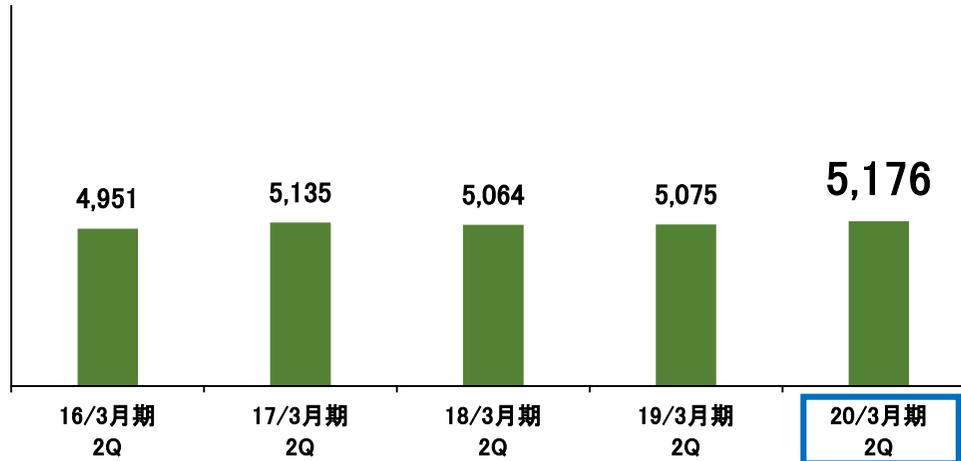
## 営業利益/営業利益率



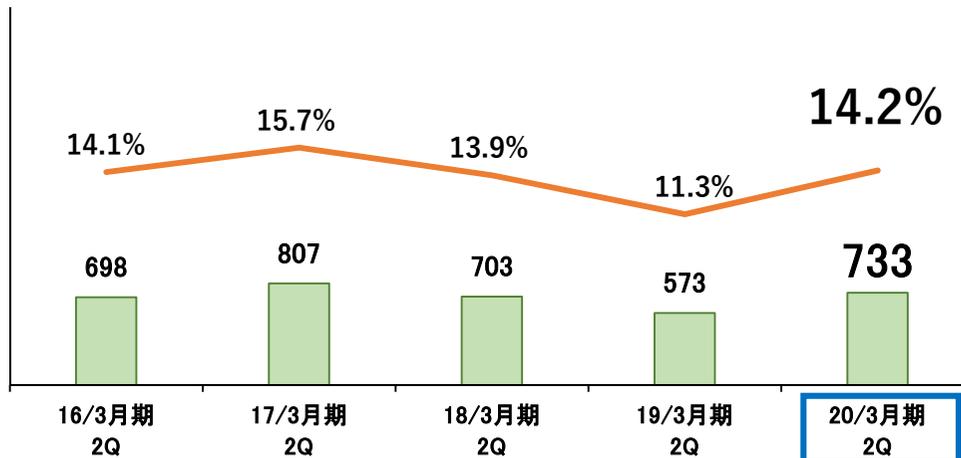
# 決算と取り組みの総括④ 産業機器関連事業

## 売上高

(単位: 百万円)



## 営業利益/営業利益率



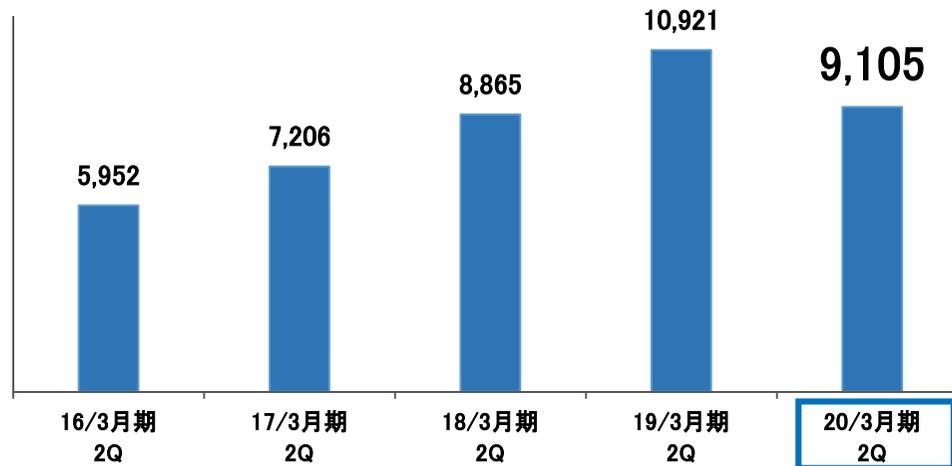
## ポイント

- ・海外補修品の受注
- ・海外売上高は堅調な伸び
- ・国内市場は前年同期比横ばいに推移
- ・三田第1期工事に伴う移転費用及び償却費増などのコストアップ要因を吸収し収益改善

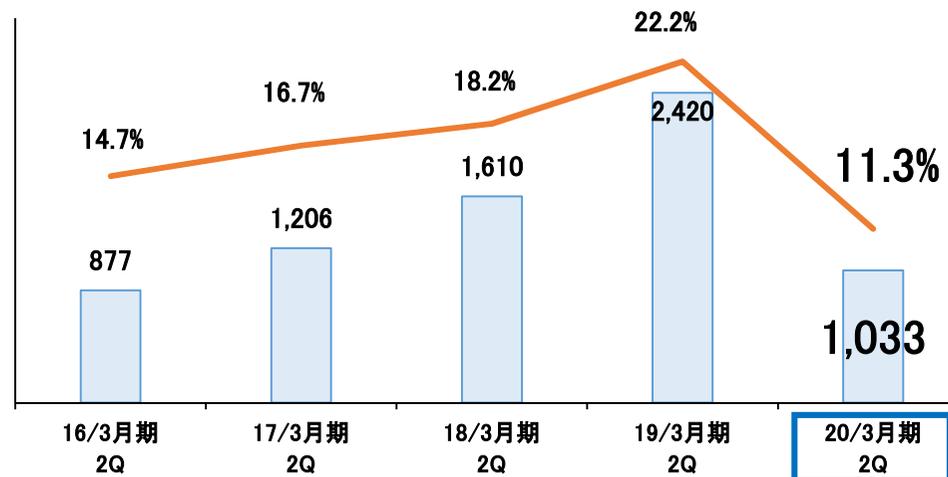
# 決算と取り組みの総括⑤ 電子機器関連事業

## 売上高

(単位: 百万円)



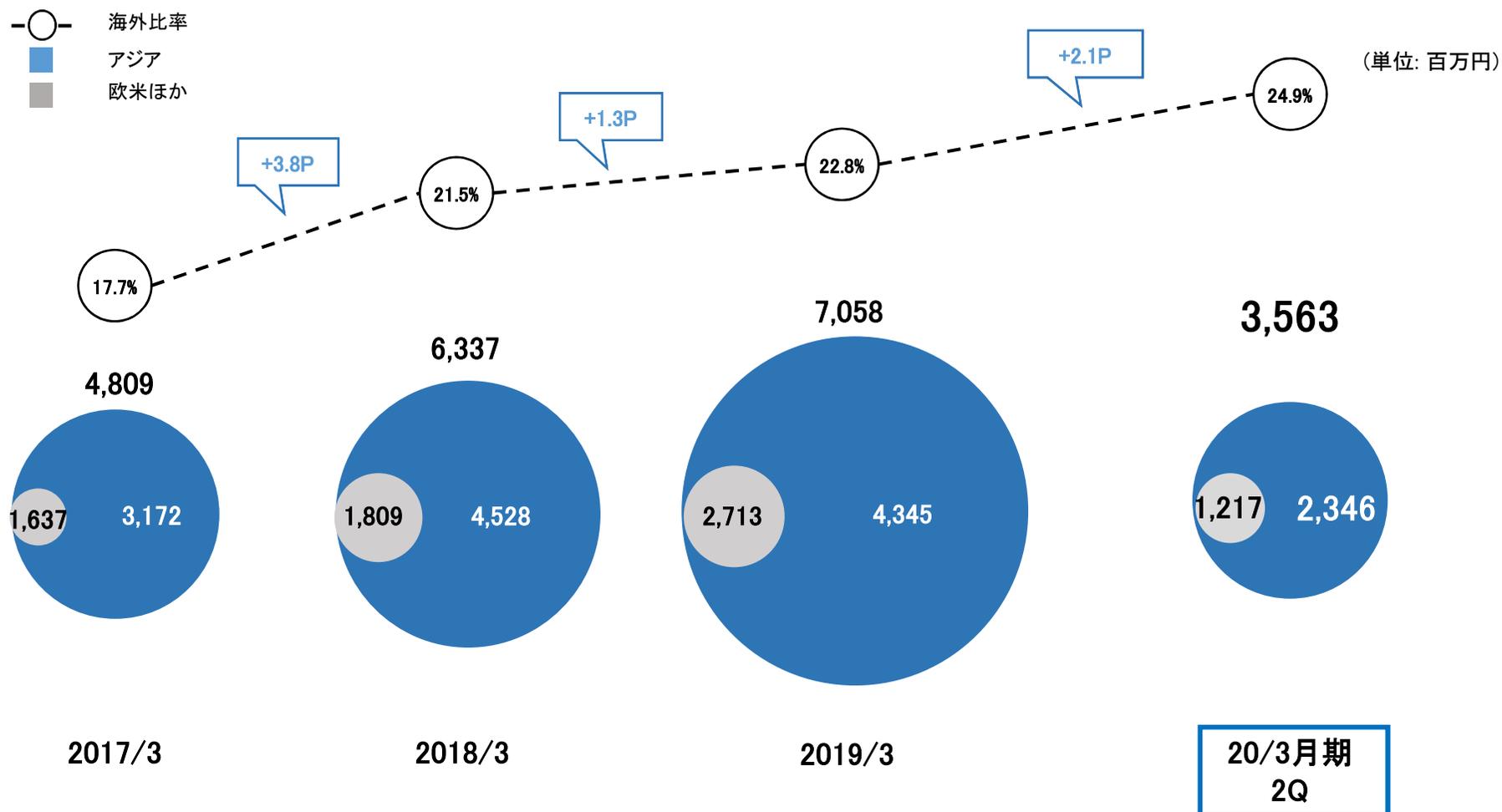
## 営業利益/営業利益率



## ポイント

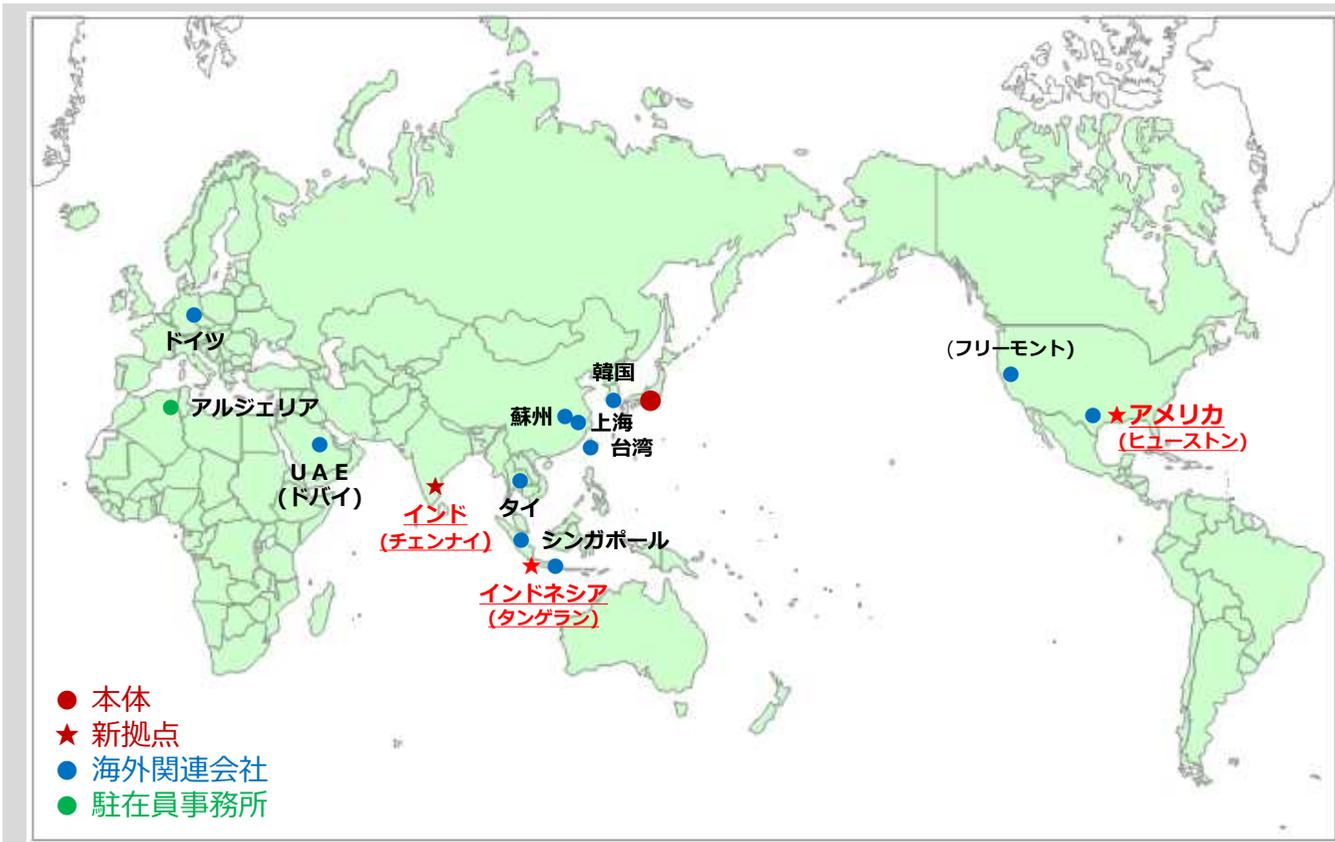
- ・半導体製造装置市場は、昨年度4Qから引き続き受注が低迷し減収減益
- ・売上減少及び海外生産拠点拡充に伴う費用増加もあり減益
- ・中長期的な視点から成長市場と捉え積極的な投資を継続中

# 決算と取り組みの総括⑥ 海外売上高の拡大



# 決算と取り組みの総括⑦ 海外事業の拡大(1)

## 海外市場への事業拡張



## ポイント

### 2019年度の拠点展開状況

開設月	拠点展開状況
19年7月	インドネシアにてMS製造現法と販売現法を相次ぎ設立
19年11月	米国で日本ピラーアメリカの生産工場稼働
20年3月(予定)	インドにシール製品の製造販売現法を設立

# 決算と取り組みの総括⑦ 海外事業の拡大(2)

## 北米での生産拠点設立

### ふっ素樹脂加工工場開設

- 現地生産での納期・コスト対応でCS向上図る
- 樹脂加工・特注品の現地ニーズに即応可能な体制構築



### 北米現法(NPCA)生産工場の概要

- |         |                    |
|---------|--------------------|
| (1)所在地  | アメリカ合衆国テキサス州ヒューストン |
| (2)稼働   | 2019年11月           |
| (3)工場面積 | 4,945㎡             |
| (4)事業内容 | フッ素樹脂加工及び製品組立      |
| (5)従業員  | 10名                |

# 決算と取り組みの総括⑦ 海外事業の拡大(3)

## インドでの子会社設立

世界第2位の人口有する巨大市場への本格参入

- 現地でグランドパッキンの製造・販売を実施し既存顧客のCS向上を図る
- 拡大するインド市場に拠点を置き、新市場開拓、生産品目の拡充を行う
- インドのバルブ市場は年平均成長率8.6%の成長市場。需要拡大に向け納期・コスト対応力向上を図る



### アジア圏の主要国・地域の経済見通し

(2018年時点を100とした実質GDP伸び率)



### インド子会社の概要

- |          |                                  |
|----------|----------------------------------|
| (1) 商号   | Nippon Pillar India Pvt Ltd (仮称) |
| (2) 所在地  | インド共和国タミル・ナドゥ州チェンナイ              |
| (3) 設立   | 2020年3月予定                        |
| (4) 資本金  | 100,000,000ルピー(約1.5億円)           |
| (5) 工場面積 | 2,000㎡                           |
| (6) 事業内容 | グランドパッキンの製造・販売                   |
| (7) 従業員  | 約20名                             |



# 1.決算の状況

## 業績サマリー

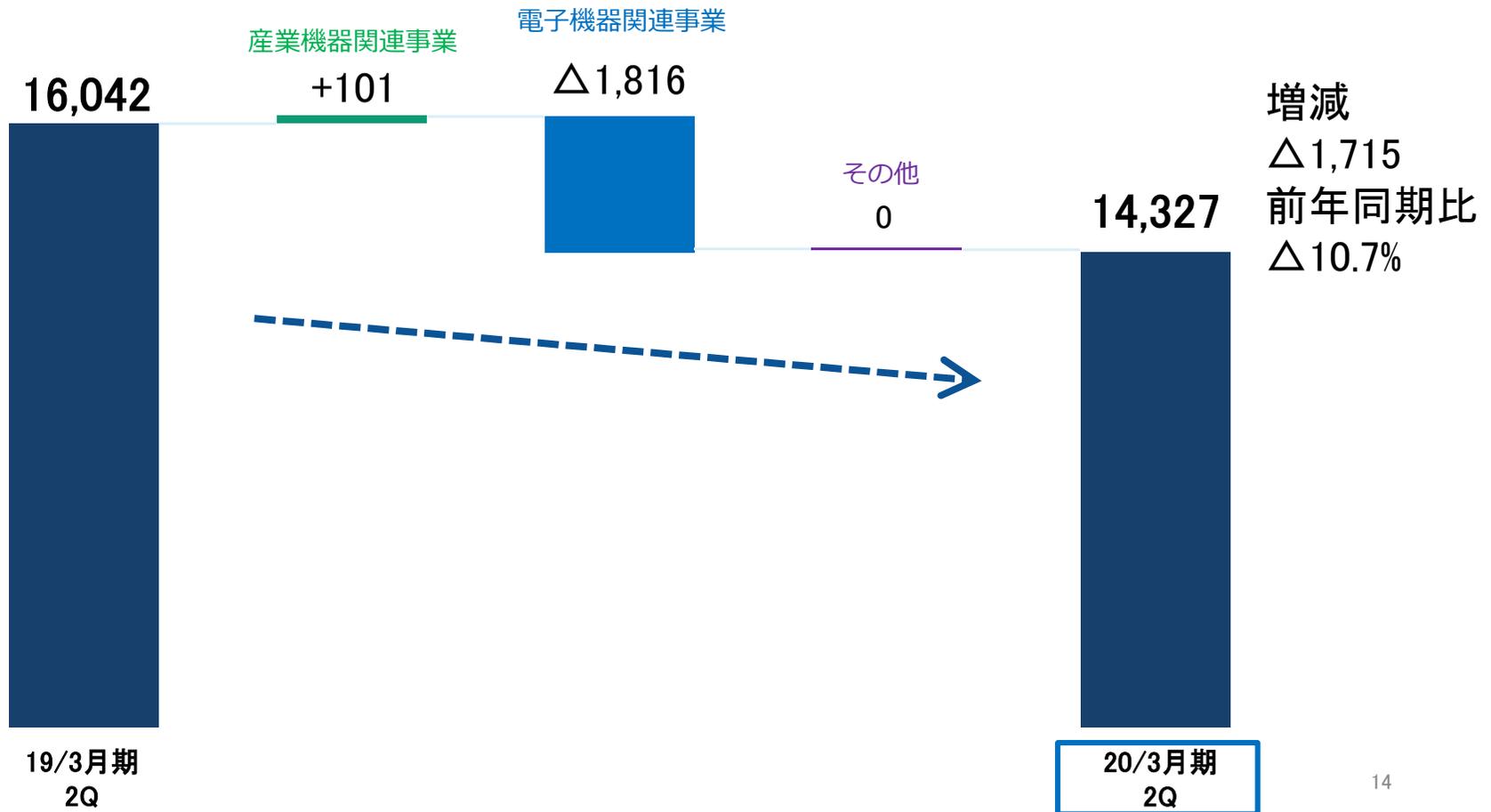
(単位: 百万円)

	19/3月期 2Q	20/3月期 2Q	前年度比	
	<実績>	<実績>	増減額	増減率(%)
<b>連結業績</b>				
売上高	16,042	14,327	△1,715	△10.7
営業利益	3,024	1,805	△1,219	△40.3
営業利益率	18.9%	12.6%	—	—
経常利益	3,130	1,805	△1,325	△42.3
当期純利益	2,314	1,318	△996	△43.0
一株当たり当期純利益	94.65	54.05	△40.60	—
配当金	20	20	0	—
<b>セグメント別</b>				
<b>産業機器関連事業</b>				
売上高	5,075	5,176	101	2.0
営業利益	573	733	160	27.9
<b>電子機器関連事業</b>				
売上高	10,921	9,105	△1,816	△16.6
営業利益	2,420	1,033	△1,387	△57.3

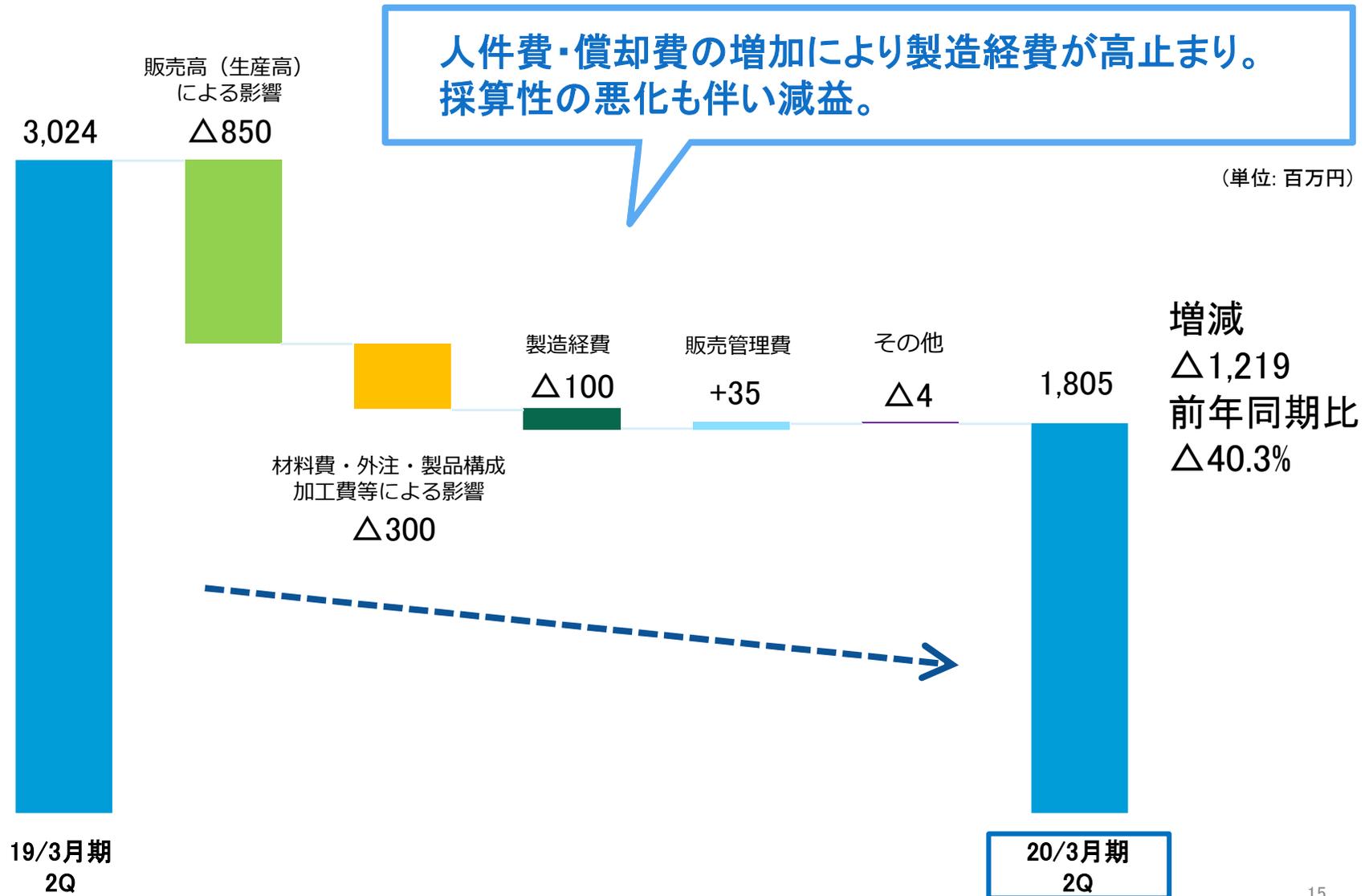
# 売上高の増減分析

産業機器: 補修品を含む海外売上好調も国内市場は横ばい  
電子機器: 半導体市場の投資減速を受け売上が低調

(単位: 百万円)

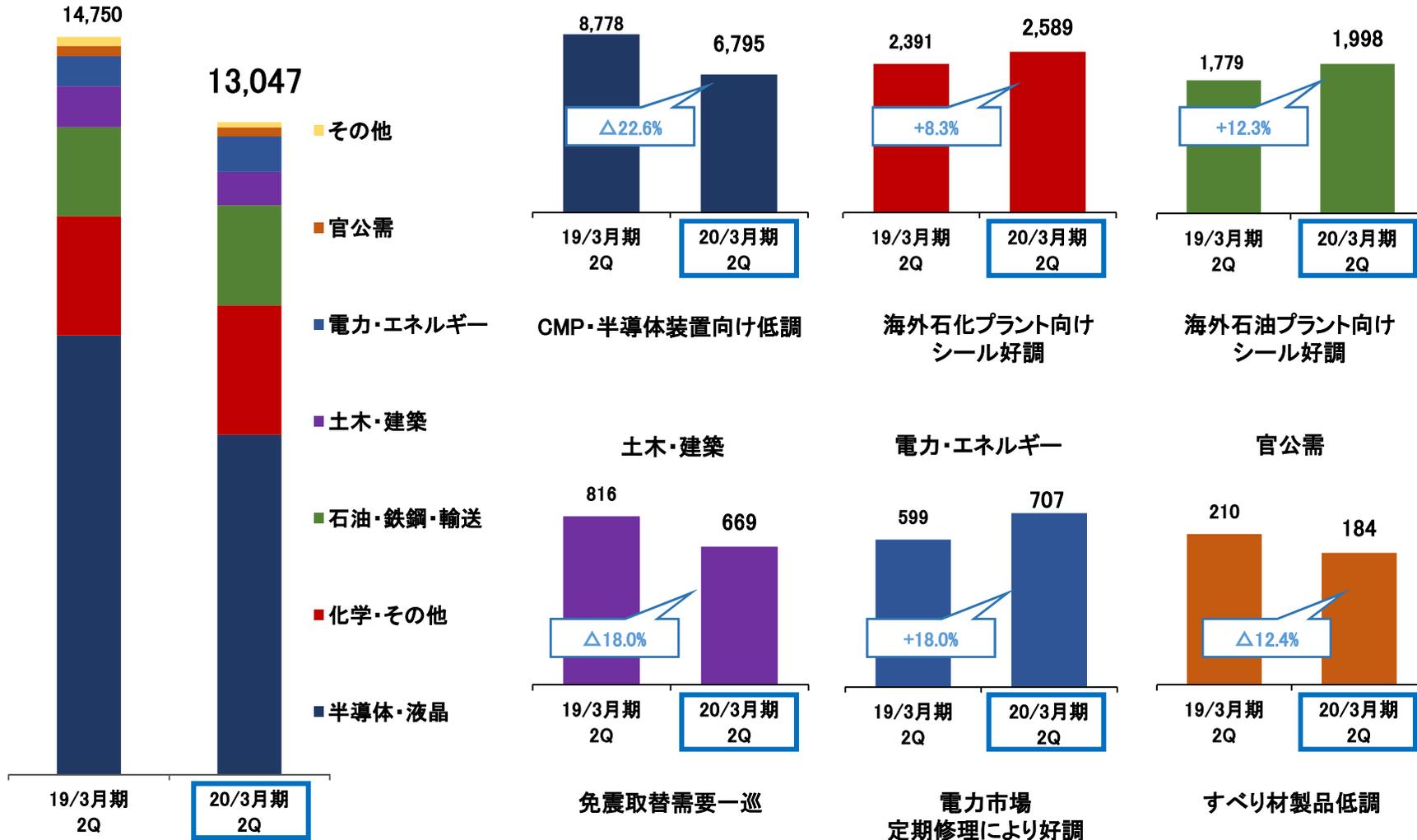


# 営業利益の増減分析



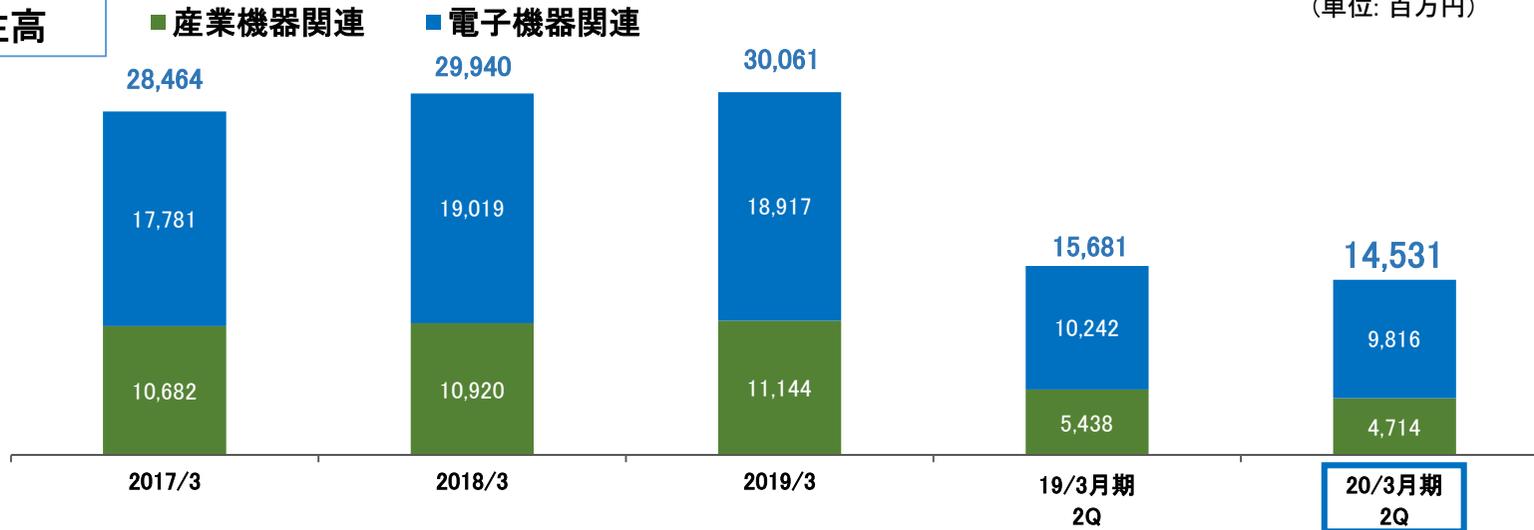
# 市場別 売上高内訳 (単体)

(単位: 百万円)

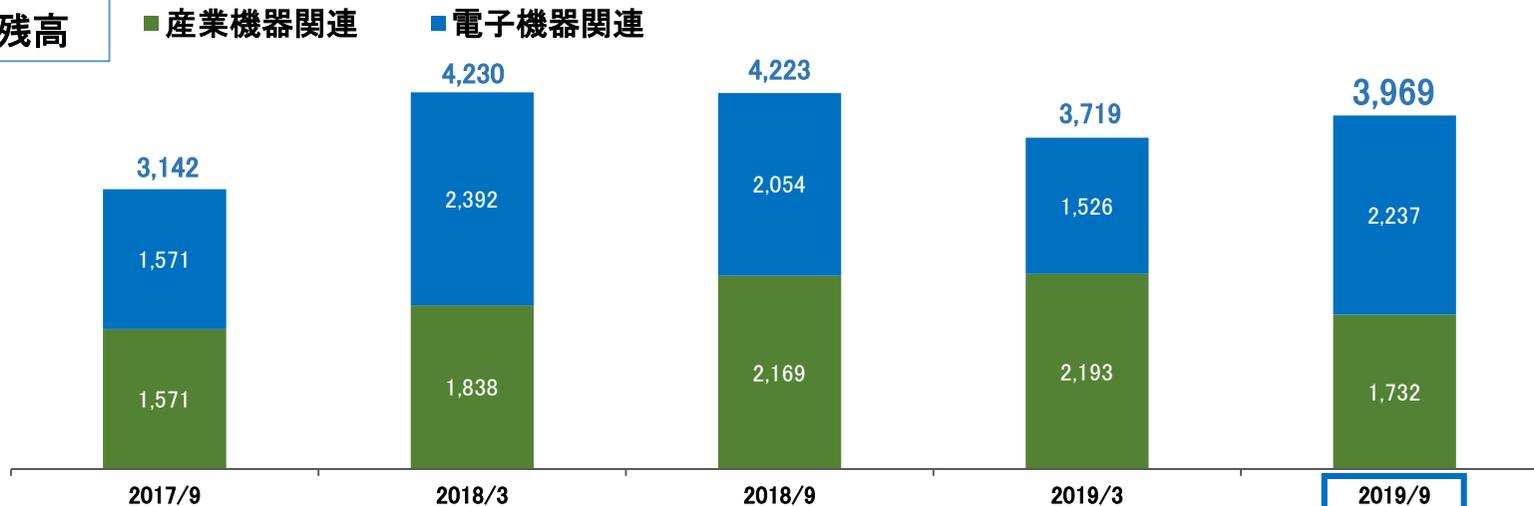


# 受注高、受注残高の推移

## 受注高

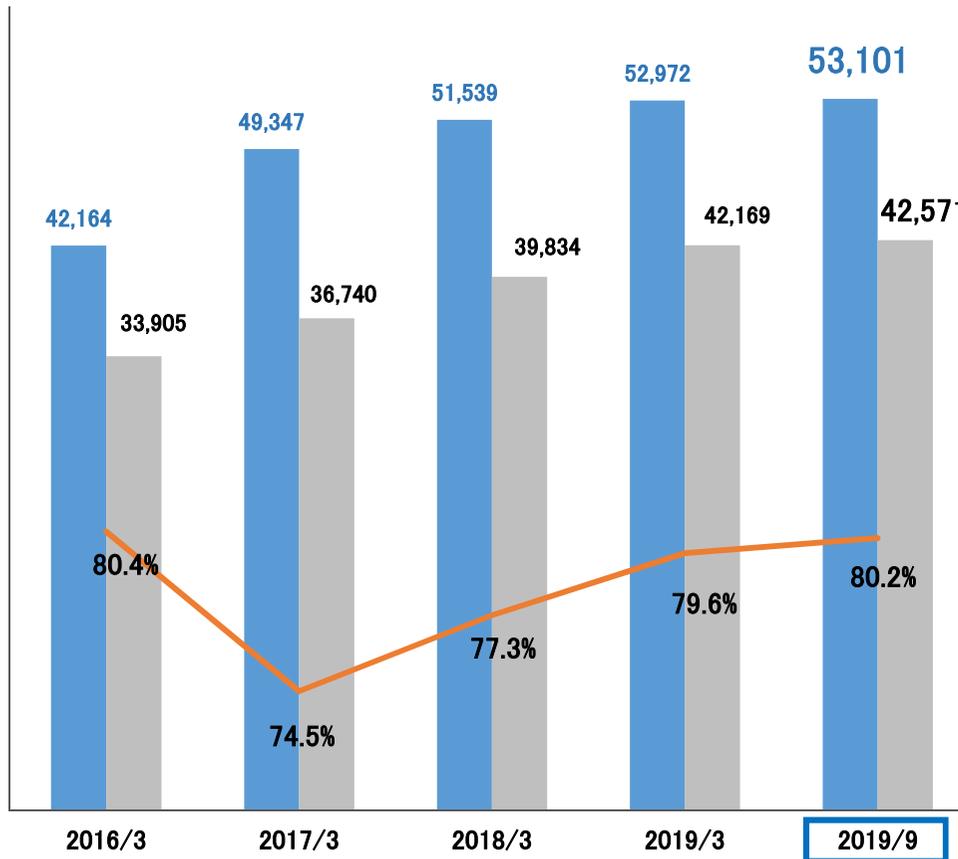


## 受注残高



# 財政状態 (2019年9月末)

■ 総資産 ■ 純資産 — 自己資本比率 (単位: 百万円)

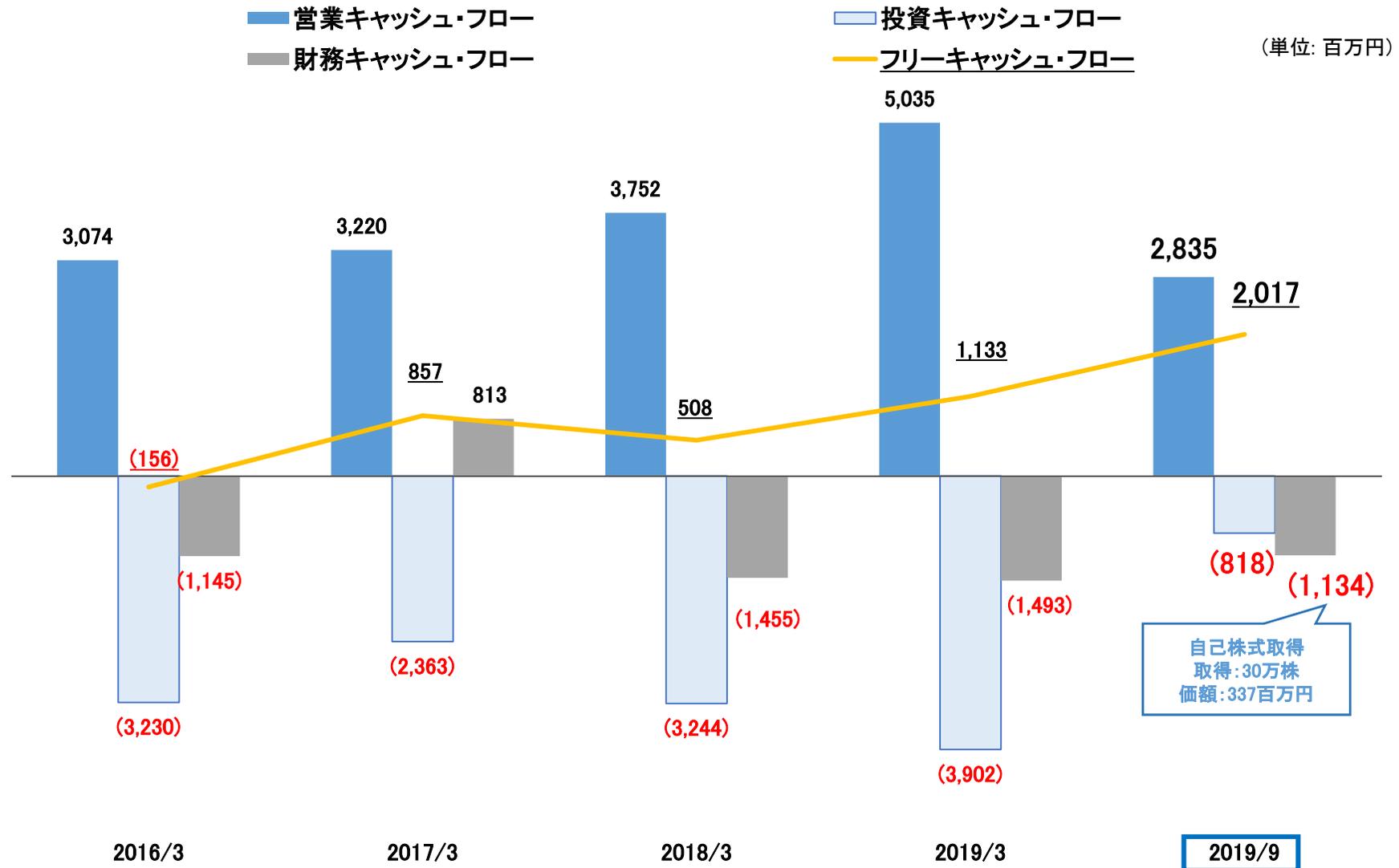


## ポイント

- ・総資産は約1.3億の増加
- ・政策保有株式の売却(簿価22百万円)
- ・有利子負債は約1.7億減少
- ・利益剰余金の増加 約7億
- ・自己株式30万株(取得価額3.3億)取得
- ・自己資本比率80.2%

※「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計期間(2018年3月期)の実績については、当会計基準等を遡って適用した後の数値を記載しています。

# キャッシュ・フロー

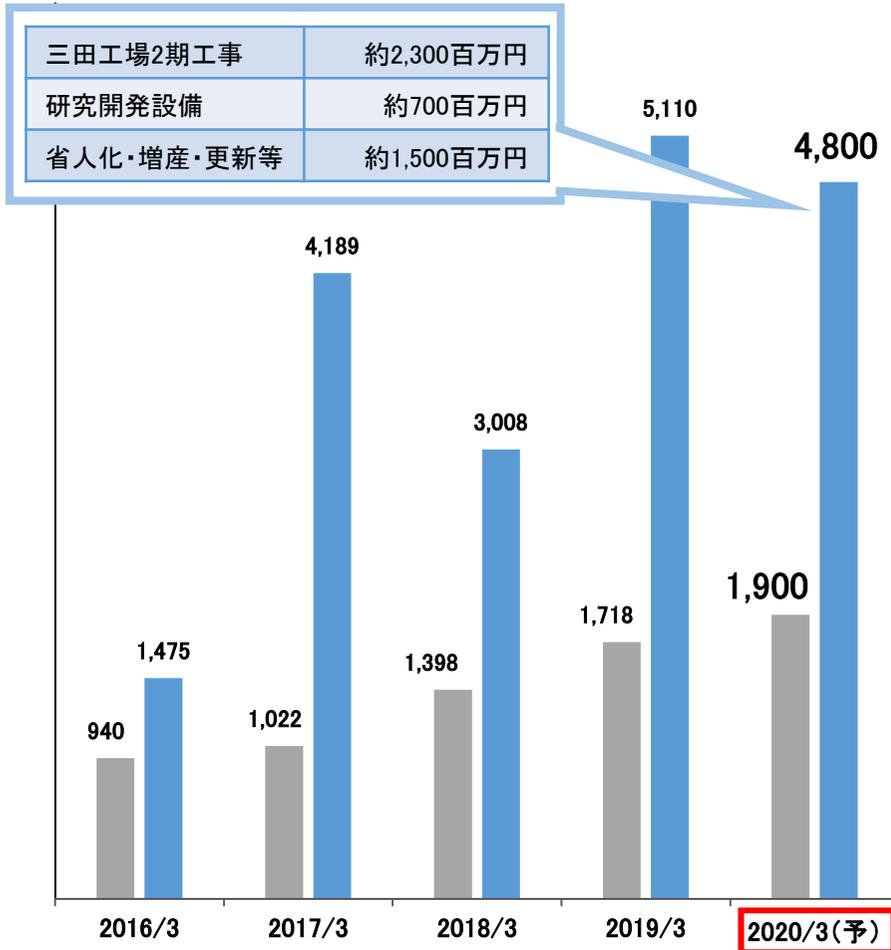


# 設備投資と減価償却費／研究開発費

## 設備投資と減価償却費

■ 減価償却費 ■ 設備投資

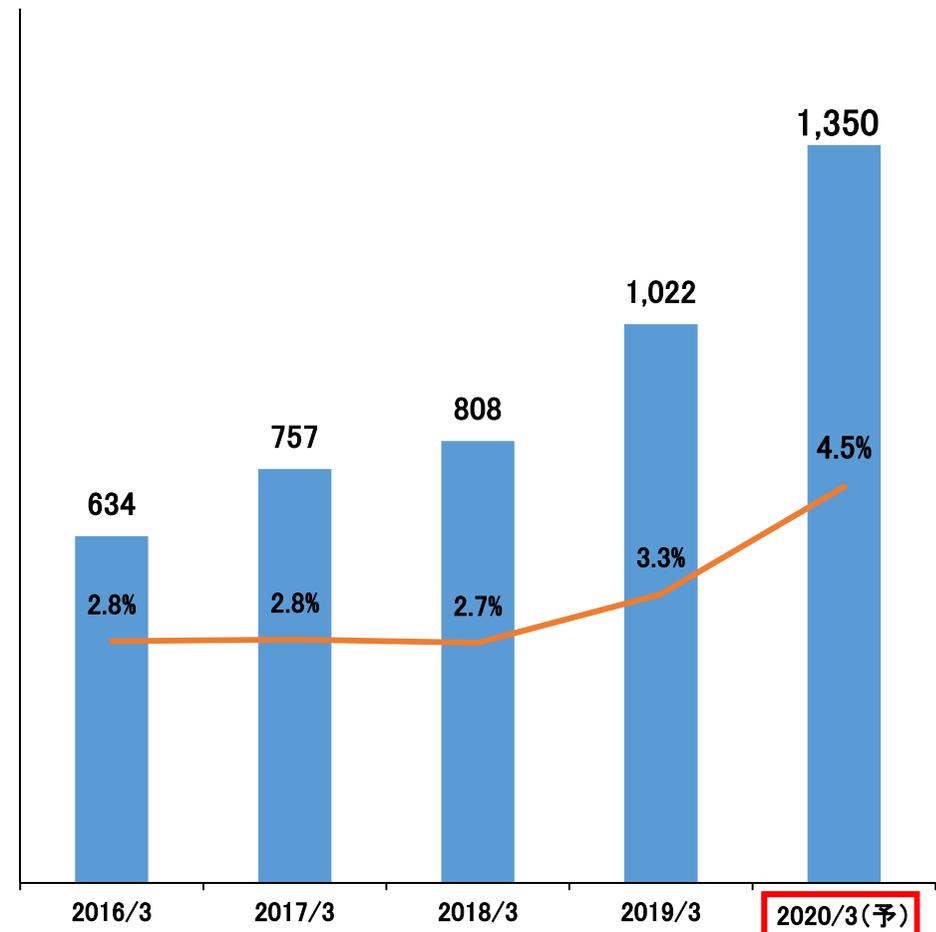
(単位: 百万円)



## 研究開発費

■ 研究開発費 ■ 売上高比

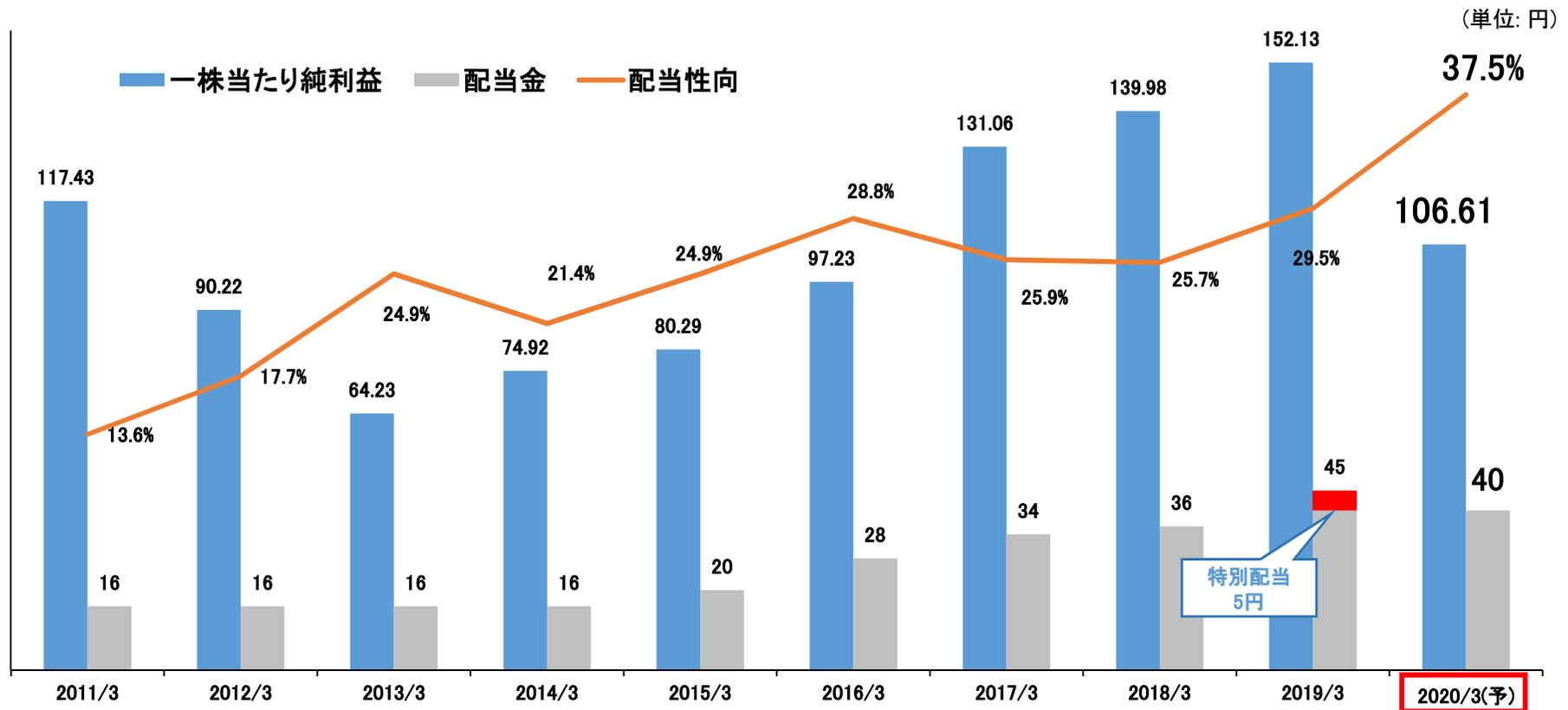
(単位: 百万円)



# 一株当たり純利益、配当金・配当性向

## 配当方針

当社は、株主の皆さまへの利益還元を経営上の重要課題の一つとして位置付け、安定的かつ継続的な配当と配当水準の向上に努めることを基本方針としております。  
2020年3月期の配当予想につきましては、年間40円の配当を予定しております。



## 2020年3月期 業績予想

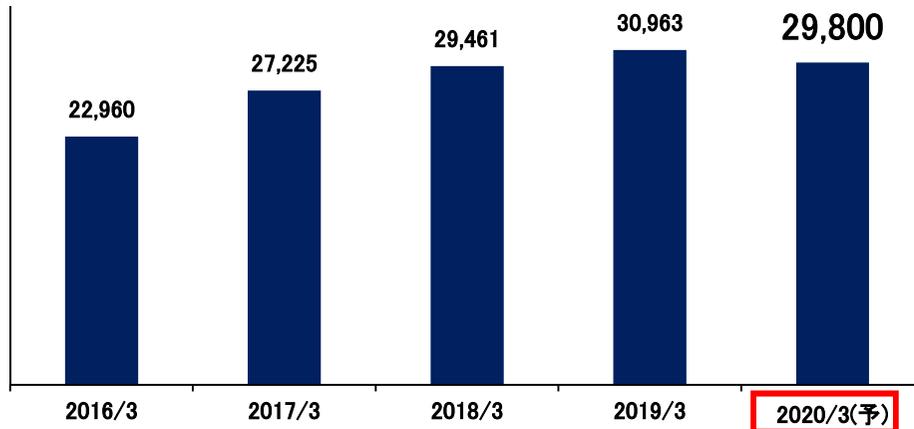
(単位: 百万円)

	2019年3月期 通期	2020年3月期 通期	前年度比	
	<実績>	<予想>	増減額	増減率(%)
<b>連結業績</b>				
売上高	30,963	29,800	△1,163	△3.8
営業利益	5,126	3,600	△1,526	△29.8
営業利益率	16.6%	12.1%	—	—
経常利益	5,227	3,600	△1,627	△31.1
当期純利益	3,719	2,600	△1,119	△30.1
一株当たり当期純利益	152.13	106.61	△45.52	—
配当金	45	40	△5	—
<b>セグメント別</b>				
<b>産業機器関連事業</b>				
売上高	10,757	10,400	△357	△3.3
営業利益	1,485	1,100	△385	△25.9
<b>電子機器関連事業</b>				
売上高	20,123	19,300	△823	△4.1
営業利益	3,641	2,500	△1,141	△31.3

# 2020年3月期 業績分析

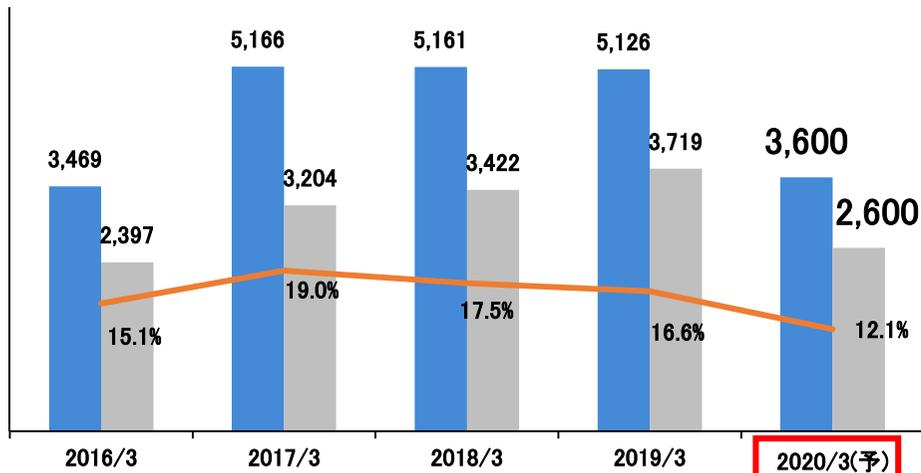
## 売上高

(単位: 百万円)



## 営業利益・当期純利益/営業利益率

■ 営業利益 ■ 当期純利益 — 営業利益率



## ポイント

売上高:  $\Delta 1,163$ 百万円(前年比 $\Delta 3.8\%$ )

営業利益:  $\Delta 1,526$ 百万円(前年比 $\Delta 29.8\%$ )

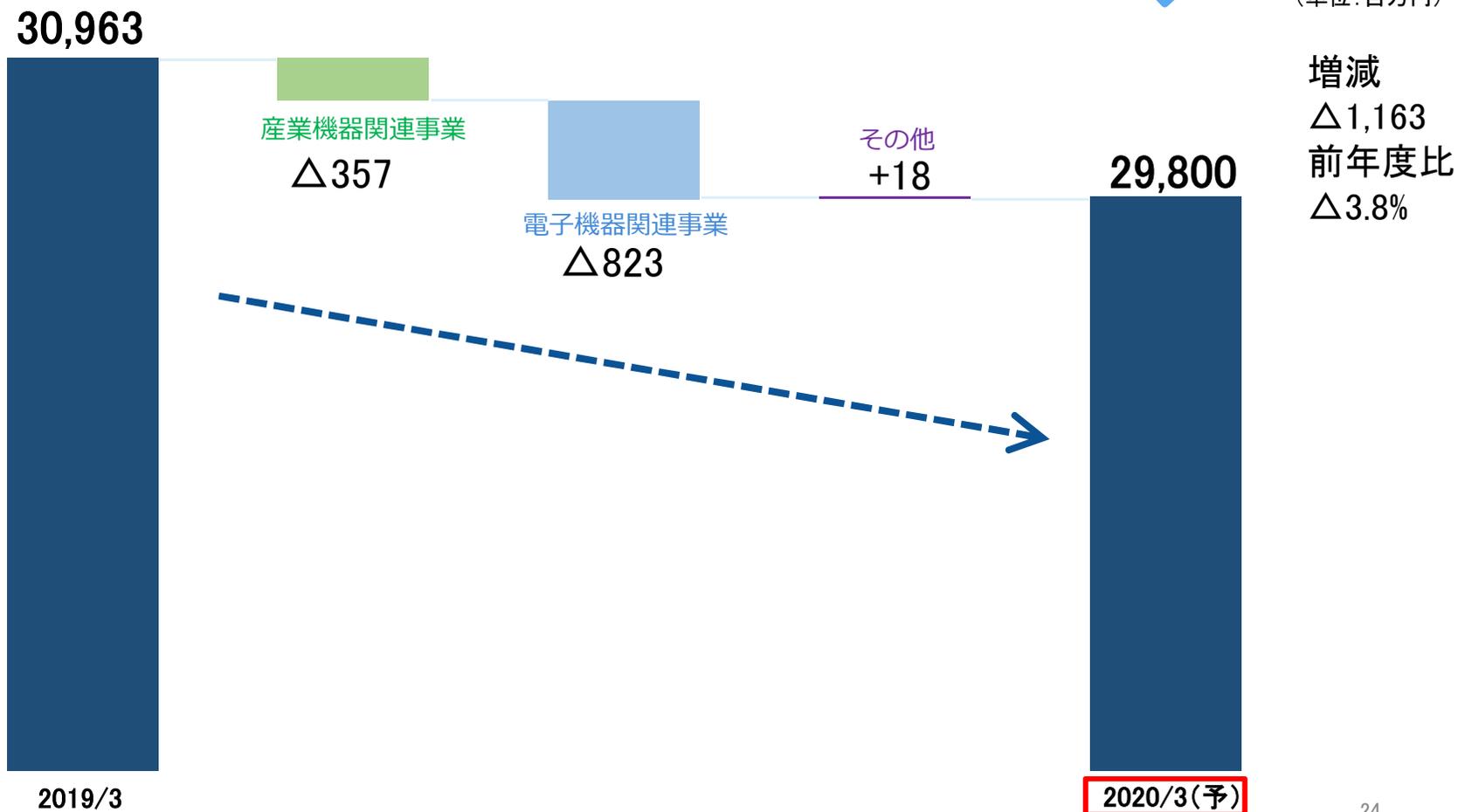
当期純利益:  $\Delta 1,119$ 百万円(前年比 $\Delta 30.1\%$ )

- ・産業機器関連事業
  - ✓ 半導体CMP装置用製品の受注回復期待
  - ✓ 海外補修品案件に継続して注力
  - ✓ 海外拠点の拡充(インドネシア・インド)
- ・電子機器関連事業
  - ✓ 年後半からの半導体設備投資回復を期待
  - ✓ 本格的な需要回復は2020年以降の見通し
  - ✓ 成型機増設など増産体制の強化を継続
- ・先端技術分野での米中貿易摩擦のリスクを懸念
- ・2019年11月 新三田工場稼働

# 2020年3月期 売上高増減分析

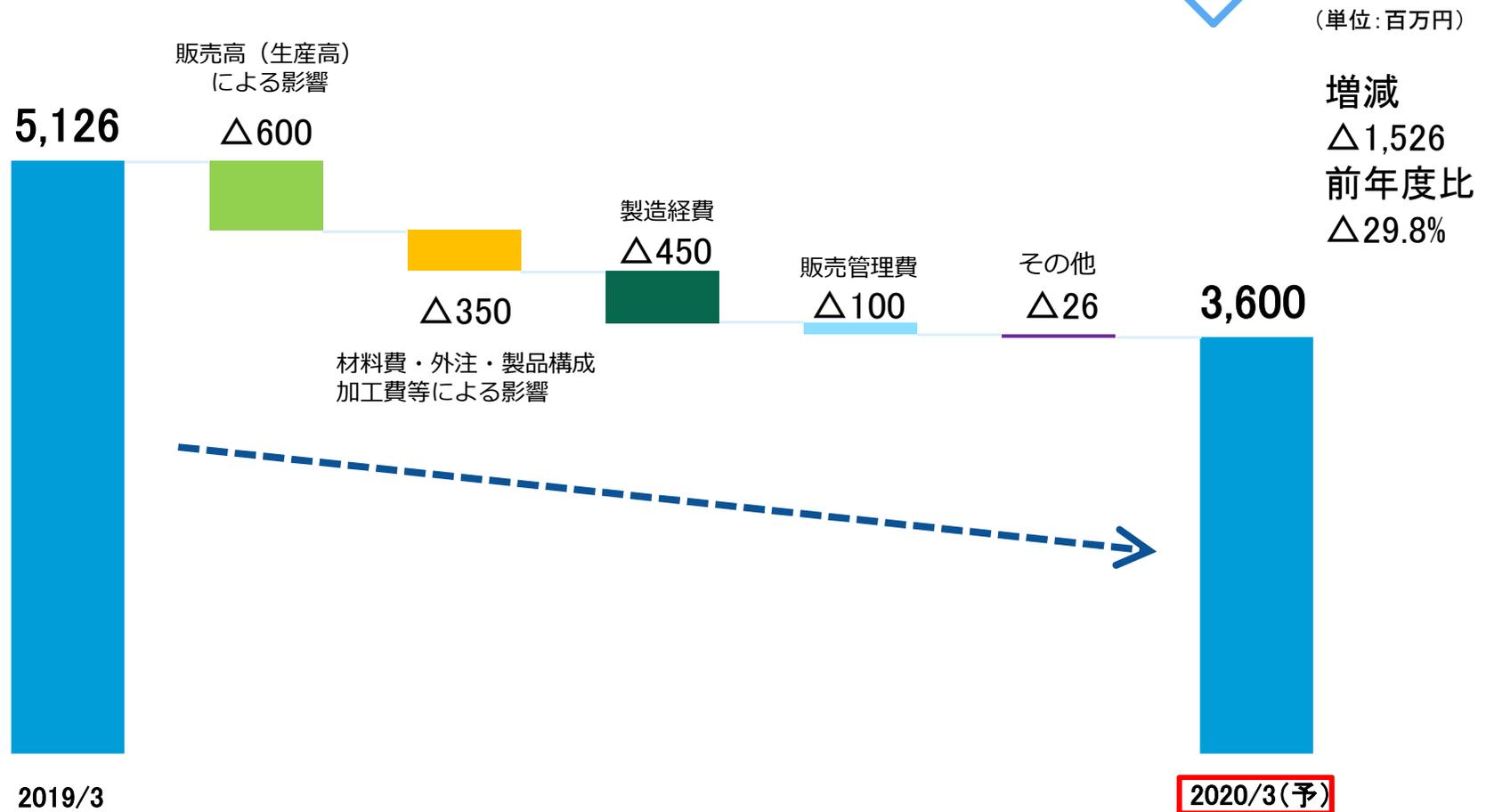
産業機器：海外補修品がけん引するも半導体CMP装置向けが低迷  
電子機器：半導体関連の本格的な投資回復は2020年以降の見込み

(単位：百万円)



# 2020年3月期 営業利益増減分析

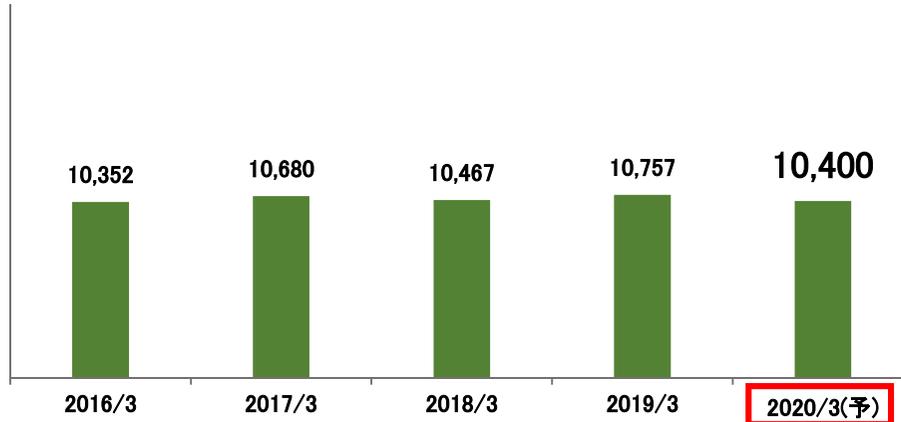
期初予算に対し2億円増の着地見込み  
新三田工場稼働に伴う償却費、租税負担、移転費用の増加が影響



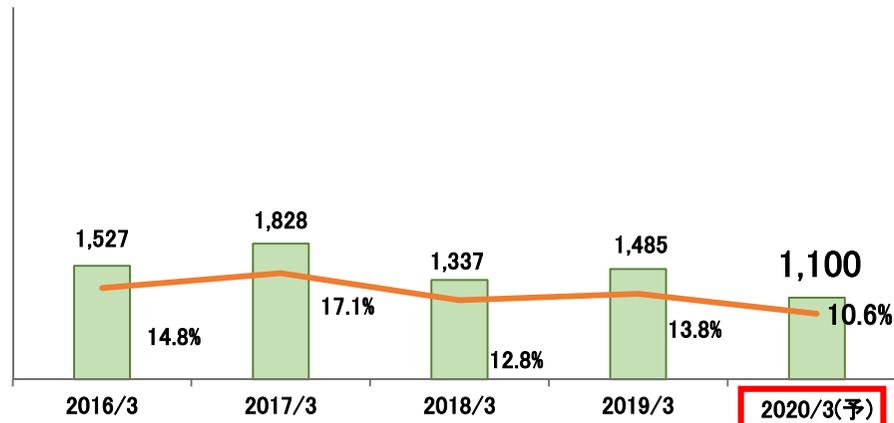
# 2020年3月期 産業機器関連事業 業績分析

## 売上高

(単位: 百万円)



## 営業利益/営業利益率



## ポイント

売上高:  $\Delta 357$ 百万円(前年比 $\Delta 3.3\%$ )

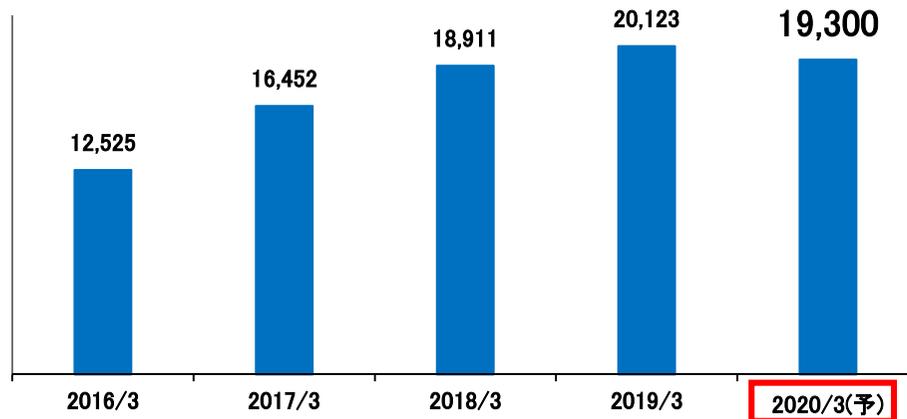
営業利益:  $\Delta 385$ 百万円(前年比 $\Delta 25.9\%$ )

- ・半導体CMP製造用製品の受注回復期待
- ・三田工場リニューアル  
第二期工事の竣工(2019年11月)に伴う  
償却費・租税負担・移転費用が増加
- ・電力・エネルギー市場は、定期修理による  
一時的な回復を見せたものの横ばいで推移
- ・海外展開の強化拠点(インドネシア・インド)

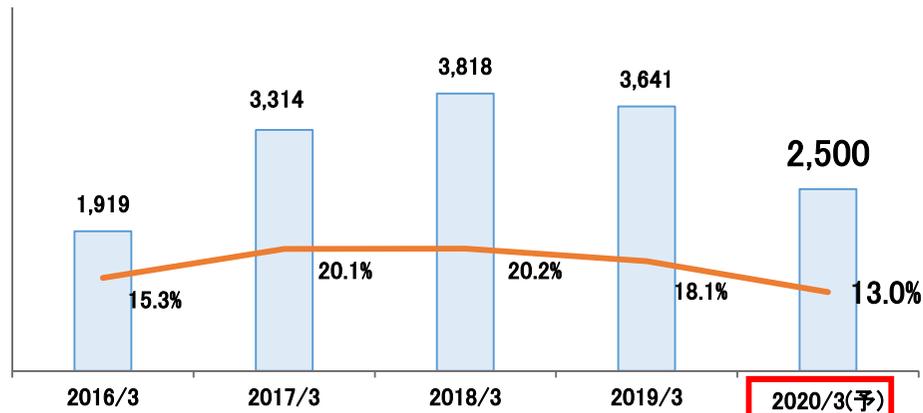
# 2020年3月期 電子機器関連事業 業績分析

## 売上高

(単位: 百万円)



## 営業利益/営業利益率



## ポイント

売上高:  $\Delta 823$ 百万円(前年比 $\Delta 4.1\%$ )

営業利益:  $\Delta 1,141$ 百万円(前年比 $\Delta 31.3\%$ )

- ・年後半からの半導体投資の回復に期待
- ・5GやIoT関連等の需要を見据えた増産対応への積極的な投資を継続実施
- ・増産体制構築に伴う償却費・電力費等の固定費増加
- ・アメリカ現法 樹脂加工開始
- ・先端技術分野での米中貿易摩擦のリスクを懸念



## 2.経営計画と進捗

# 中期経営計画「BTvision19」の全体像(基本方針)

2017年度より3か年の中期経営計画「BTvision19(ブレイクスルービジョンイテキュウ)」を実行

## BTvision19

～ 省資源と安全でクリーンな地球社会に貢献します ～

### 基本方針

#### 企業競争力の強化

生産性向上への取組み推進、並びに効果的な設備投資を行う事で、より利益を創出出来る強固な経営基盤を構築し、更なる企業競争力の強化を実現する。

#### グローバル事業の推進

市場のグローバル化への追従を図るため、「販売ネットワークの構築」「製造拠点の拡充」並びに「人材育成」を行い、グローバル事業の推進を図る。

#### 新規事業の創出

新製品・新市場・新用途等「新」をキーワードに、新規性の高いビジネスへの積極的な取組みを行い、産業機器関連事業、電子機器関連事業に続く第3の柱を構築する。

#### 人材育成

グローバル化教育を中心に、ピラーの継続的成長に貢献出来るリーダーシップ、並びに幅広い視野と知見を持った人材育成を実施する。

# 「BTvision19」 目標と実績

期初見通しより上方の着地見込みとなるものの、依然として半導体設備投資が低迷。本格的な受注回復は2020年以降の見通しのため、計画の達成は困難な状況。計画に対し減収・減益となる見通し。

(単位: 百万円)

	2017年度				2018年度				2019年度			
	〈計画〉	実績	計画比	達成率(%)	〈計画〉	実績	計画比	達成率(%)	〈計画〉	〈本年度見通し〉	計画比	増減率(%)
売上高	28,300	29,461	+1,161	104.1	30,800	30,963	+163	100.5	32,500	29,800	△2,700	△8.3
営業利益	4,700	5,161	+461	109.8	5,200	5,126	△74	98.6	5,800	3,600	△2,200	△37.9
当期純利益	3,100	3,422	+322	110.4	3,600	3,719	+119	103.3	3,800	2,600	△1,200	△31.6
ROE(%)	8.0%以上	8.9%	-	-	8.0%以上	9.1%	-	-	8.0%以上	6%前後	-	-

# 「BT Vision19」 取り組みの進捗

基本方針	計画	進捗と展望
企業競争力の強化	生産性向上への取り組み推進、並びに効果的な設備投資を行う事で、より利益を創出出来る強固な経営基盤を構築し、更なる企業競争力の強化を実現する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業機器関連               <ul style="list-style-type: none"> <li>✓2019年11月 新三田工場稼働開始</li> <li>✓自動化・省人化を本格化させ生産性向上を図る</li> </ul> </li> <li>・電子機器関連               <ul style="list-style-type: none"> <li>✓将来の受注拡大に向けた増産体制強化継続</li> <li>✓米国拠点での樹脂加工を開始</li> </ul> </li> </ul>
グローバル事業の推進	市場のグローバル化への追従を図るため、「販売ネットワークの構築」「製造拠点の拡充」並びに「人材育成」を行い、グローバル事業の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドイツに初の欧州拠点となる日本ピラーヨーロッパ設立               <ul style="list-style-type: none"> <li>✓営業・技術サポート強化</li> </ul> </li> <li>・インドネシア現法及びインド現法の設立</li> <li>・海外売上高比率向上               <ul style="list-style-type: none"> <li>✓24.9%(前年度期末比2.1ポイントUP)</li> </ul> </li> </ul>
新規事業の創出	新製品・新市場・新用途等「新」をキーワードに、新規性の高いビジネスへの積極的な取り組みを行い、産業機器関連事業、電子機器関連事業に続く第3の柱を構築する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新製品の上市</li> </ul>
人材育成	グローバル化教育を中心に、ピラーの継続的成長に貢献出来るリーダーシップ、並びに幅広い視野と知見を持った人材育成を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国内               <ul style="list-style-type: none"> <li>✓語学研修(英会話、製造技術英語)の継続</li> <li>✓トレーニー制度の構築検討</li> </ul> </li> <li>・海外               <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ローカル人材のマネージャー育成</li> <li>✓ローカル社員の本社研修</li> </ul> </li> </ul>

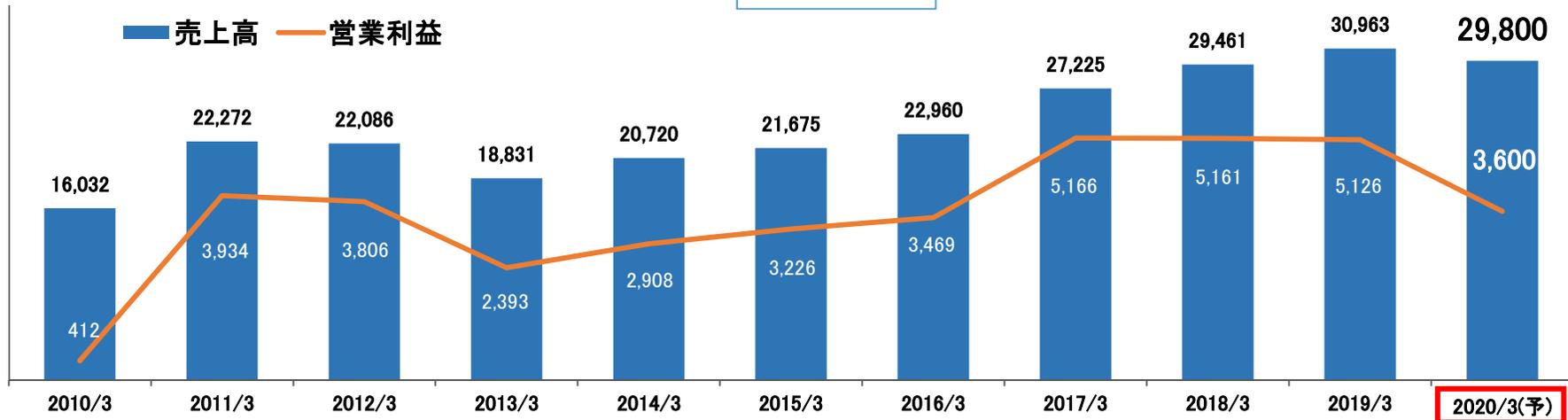


(参考資料)

# 主要指標の長期トレンド

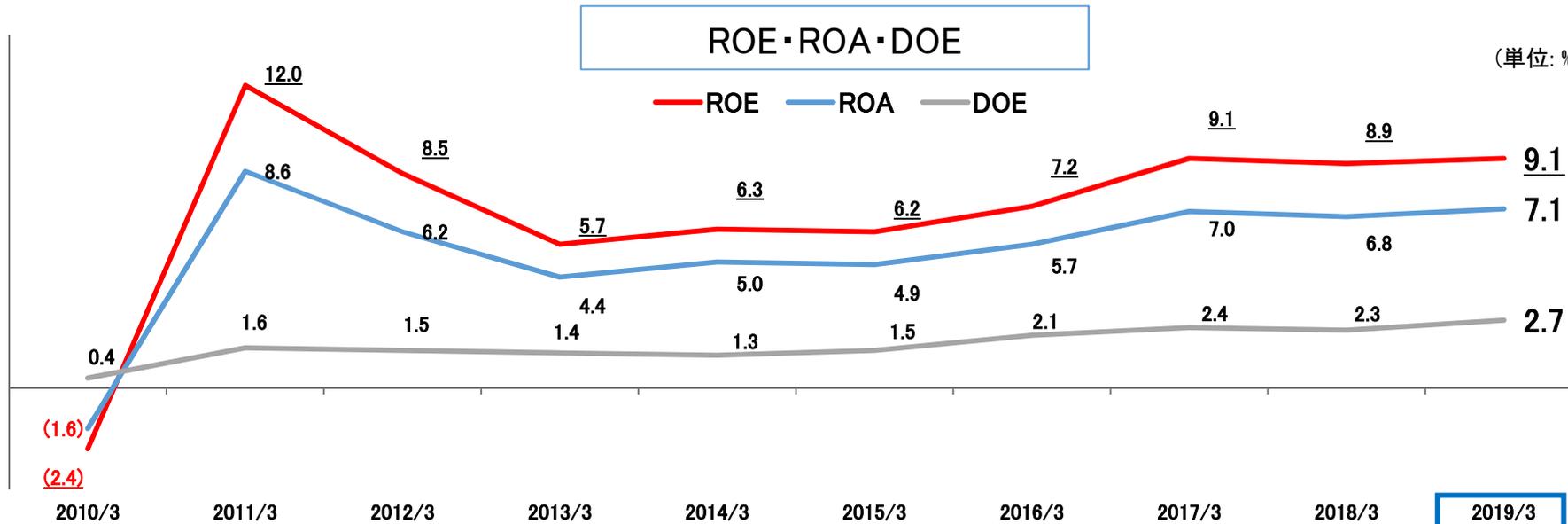
売上高

(単位: 百万円)



ROE・ROA・DOE

(単位: %)

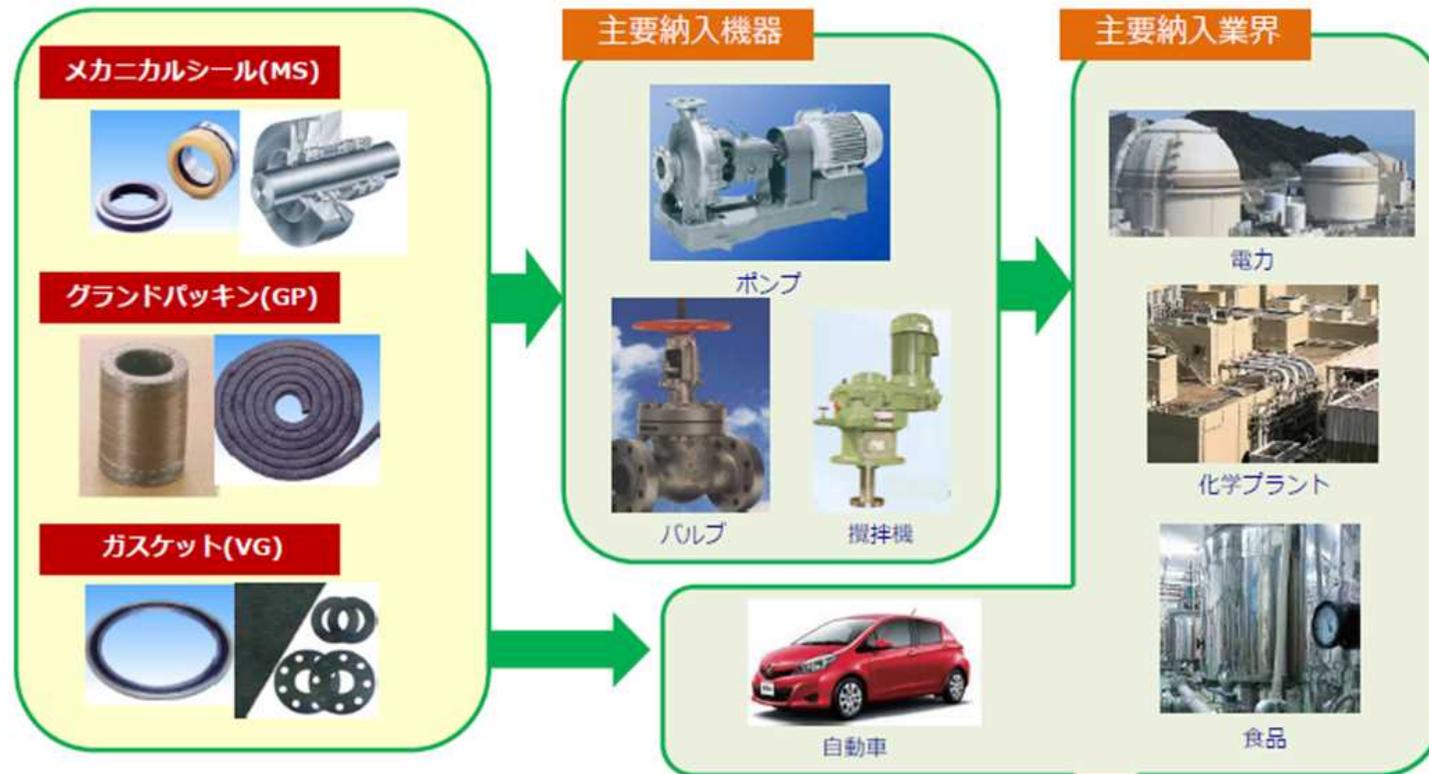


# 当社関係業界の事業環境の見通し

業界	2019年 1～3月	4～6月	7～9月	10～12月	景気予測
産業・工作機械		→ 	→ 	→ 	米中貿易戦争の長期化で企業の設備投資意欲が回復しない。電機や自動車向けの受注が減り、中国や欧州向けが低迷。回復は20年春ごろになるとの見方もある。
電子部品・半導体		→ 	→ 	→ 	世界景気の低迷で落ち込んでいた市場に復調の兆し。NAND型フラッシュメモリの価格が下げ止まり、一部上昇に転じ、増産に向けた設備投資が徐々に再開の見通し。
電力		→ 	→ 	→ 	小売り自由化以降、大幅な値下げで各社の我慢比べが継続。大手電力は原子力発電所の安全対策費が想定以上に膨らみ、収益の下押し要因となっている。
自動車		→ 	→ 	→ 	タイやインドネシアで自動車ローンの審査厳格化が広がり新車販売を押し下げる。インドやオセアニア周辺国も軒並み低調。欧州は、英国のEU離脱問題により影響の可能性あり。国内は底堅く推移する見通し。
プラント・造船		→ 	→ 	→ 	プラントは北米を中心に人手不足などでプロジェクトの採算管理が難しい。サウジアラビアの石油施設攻撃による中東情勢の悪化もリスク要因。造船は中韓勢との競争激化により受注低迷が続く。
化学		→ 	→ 	→ 	米中貿易戦争の長期化で汎用樹脂などの輸出は低調に推移。化学品の国際市場は低迷。中東情勢の緊迫化で原油価格が上昇すれば、メーカーの収益を圧迫。
建設		→ 	→ 	→ 	東京駅周辺や新駅周辺など、都心再開発で大型の受注が予想され、好調な受注環境は継続。政府の公共予算拡大で防災・減災工事向けの供給も増える。

※出所：日本経済新聞（2019年10月7日）「主要30業種の天気図（10～12月産業景気予測）」より当社関係業界を抽出

# 主要な製品と主な納入先（産業機器関連事業）



メカニカルシール・グランドパッキン

✓ 高温・高圧の過酷な条件で流体の漏れを止める装置で、石油精製・化学プラントなどのポンプやバルブ等で使用されています。

ガスケット

✓ 配管と配管の接続部から流体の漏れを止める機能部品であり、自動車の排ガス装置にも使用されています。

# 主要な製品と主な納入先（電子機器関連事業）



- ふっ素樹脂の特性である「耐薬品性」・「耐熱性」・「低摩擦性」を活かした製品群
- ✓ふっ素樹脂製の継手・チューブ等は、多様な薬液に影響されないため、半導体の基となるシリコンウエハーの洗浄装置に用いられます。
  - ✓低摩擦性を応用し、建物から地震の揺れを逃がす免震装置に用いられています。

## 社 是

- ・ 品 質 第 一
- ・ 和 衷 協 力
- ・ 一 歩 研 究

## 経 営 理 念

1. 住みよい地球と豊かな社会環境づくりに貢献します。
2. 独創的で高品質な製品を提供し、お客様にとってかけがえのない企業を目指します。
3. 法令・社会規範を遵守し、公正で健全な企業活動を行います。

## 社名の由来



船舶の蒸気漏れを防ぐシール製品として、創業時に開発した「ピラーパッキンNo.1」の形状が、柱状 (=PILLAR) であったことから、日本ピラー工業と命名されています。

創 立	大正13年(1924年)
代 表 者 代 表	取締役社長 岩波清久
株 式	東京証券取引所市場第一部(証券コード:6490)
資 本 金	49億66百万円
事 業 内 容	流体制御関連機器製品の製造販売
従 業 員 数	797名 (連結:2019年3月末現在)
売 上 高	309億63百万円 (連結:2019年3月期)



流体制御技術で世界をリードし、新時代の要求にこたえる。

**日本ピラー工業株式会社**

(お問い合わせ先)  
経営企画部  
大阪市西区新町1丁目7番1号  
TEL:06-7166-8412  
FAX:06-7166-8510  
URL: <https://www.pillar.co.jp/>

- ・本資料には、将来の業績に関する予想、計画、見通しなどの記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。
- ・将来の業績は、主要市場の経済情報、製品需要の変動、為替相場の影響、国内外の各種規制、会計基準・慣行等の変更により、大幅に異なる可能性があることをご留意ください。
- ・本資料は情報の提供を目的として作成したものであり、本資料によって何らかの行動を勧誘するものではありません。